

無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 (①無02-14-4/5)

目 的

我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、その実態を把握するために資料収集と現地調査を行う。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、これまで東京文化財研究所で収集・保管している無形民俗文化財についての記録・資料の整理・公開準備を行う。

成 果

1. 無形民俗文化財に関する調査・資料収集

ア) 無形民俗文化財に関する調査・資料収集

民俗芸能の調査として「杉沢比山番楽」「幸田神楽」「厚岸神楽」等について、民俗技術の調査として「菅笠製作技術」「藤箕製作技術」「揚げ浜製塩の技術」「鵜飼漁の技術」等について伝承や保護の実態についての現地調査や資料収集を行い、現状を把握すると共に現地関係者とのネットワークを構築した。

イ) 被災地における無形民俗文化財の調査研究

東日本大震災被災地である福島県南相馬市、福島県浪江町、宮城県女川町、岩手県大船渡市等で民俗芸能・祭礼の調査を行い、資料収集・記録保存等を行った。

ウ) 無形文化遺産関係ネットワークの構築とデジタルアーカイブ事業

伝統文化活性化国民協会からデジタルコンテンツの移譲を受けたことに加え、無形文化遺産情報ネットワークにおけるデジタルアーカイブの公開準備を進めるなど、デジタルコンテンツのさらなる拡充と整備を行った。

2. 無形民俗文化財の公開状況に関する調査研究

全国民俗芸能大会（日本青年館）等における芸能公演に関する調査と記録を行った。

3. 研究集会の開催

ア) 無形民俗文化財研究協議会

第9回無形民俗文化財研究協議会を2014（平成26）年12月5日、「地域アイデンティティと民俗芸能—移住・移転と無形文化遺産」をテーマに東京文化財研究所において開催し、128名の参加を得た。

イ) 無形文化遺産情報ネットワーク協議会

第3回無形文化遺産情報ネットワーク協議会を2015（平成27）年3月27日に東京文化財研究所において開催。無形文化遺産の復興支援におけるさまざまな分野の関係者と今後の支援の在り方について協議した。

論文

・久保田裕道「花祭り研究の現在—山崎一司『花祭りの起源—死・地獄・再生の大神楽』と井上隆弘『霜月神楽の祝祭学』によせて—」『民俗芸能研究』57 民俗芸能学会 pp.29-42 14.9

報告

・久保田裕道「芸態からみる松山踊り」『高梁市松山踊り保存調査報告書』高梁市 pp.38-49 15.3

発表

・久保田裕道「まっさきに学ぶ！ ふるさとの記憶をたどる…ごいし民俗誌から」大船渡市末崎公民館 14.5

・久保田裕道「冷泉家七夕行事の民俗性」藝能学会 蔵市立文化ホールくるる 14.7

・今石みぎわ「伝統技術を伝えていくということ—『長良川の鵜飼漁の技術』の保存・活用」長良川うか

いミュージアム 15.1

- ・今石みぎわ「暮らしの記憶を記録する ごいし民俗誌その後」大船渡市末崎公民館 15.2
- ・今石みぎわ「菅笠は福岡町の宝ー地域の無形民俗文化財がもつ意味とその活用」富山県高岡市ふくおか総合文化センター 15.3

刊行物

- ・『第9回無形民俗文化財研究協議会報告書 地域アイデンティティと民俗芸能ー移住・移転と無形文化遺産』東京文化財研究所 15.3
- ・今石みぎわ・北原次郎太『花とイナウー世界の中のアイヌ文化』北海道大学アイヌ・先住民研究センター 15.3

研究組織

○久保田裕道、今石みぎわ（以上、無形文化遺産部）、齊藤裕嗣（客員研究員）